

才百六十一師団才二野戦病院略正

陸軍軍医少佐 高橋 昭

年月日	概	要
昭二〇、一、六	陸軍病院才十三号により独立混成才六二旅団編成下令	
一、一〇	独立混成才六十二旅団才二野戦病院編成完結	
一、二〇	部隊長 陸軍軍医少佐 高橋 昭	
一、二二	中支那派遣のため在野たる普通科陸軍病院出張	
一、二二	木岡出張	
一、二二	釜山着	
一、二四	鮮南國境安東通過	
一、二六	浙支回遼山海關通過才十三軍指揮下に入る	
一、三〇	上海着	
三、八	待機	
	才六軍指揮下に入り才二半部を編成	
	主力を独立混成才九十一旅団に	
	二半部を才七十師団に配属する	

(223)

2462

年月日	概
四、二〇、四、三	才二半部は松江才七十師団に至るべく上海出發 同日到着
四、八	主力は野波独混成才九十一旅団に至るべく上海出發 主力、野波到着
四、九	主力は野波仁清野波院跡に野戦病院開設
四、六	二半部は松江に野戦病院開設 夫々同地附近の所在部隊の退着収容治療に任ずると共に 警戒並に陣地構築に従事す
四、一二	才百六十一師団編成下令
四、三〇	独立混成才六十二旅団才二野戦病院を改編し 才百六十一師団才二野戦病院編成完了し 板倉前業務を統行す
五、一八	主力は一部を以て新に才二半部を編成 野波に残置し主力の業務を引継ぎ実施せしむ
五、二三	主力は陸路上海に向け野波を出發
五、二四	上海に到着
五、二六	旧二半部は陸路上海に向け松江を出發

(272)

2463

五、二六	同日上海に到着し 主力に合す
六、一一	上海浦東泥橋園に遷着蒙兵所開設
七、二〇	上海浦東南路に野戦病院開設 泥橋園遷着蒙兵所を閉鎖し
八、一五	浦東南路野戦病院に折に開設す 南滿州に進駐の命を受け野戦病院を閉鎖し 浦頭出発
八、一六	上海出発
八、一七	南京着
八、一八	輸送を中止し南京駐留
八、二〇	軍令陸甲才一一六号により復員下令
九、一五	南京に野戦病院開設 五月十八日寧波に設置せし
一〇、三〇	才二半師森田大尉以下一三八名は 独立混成才九十一旅団に転属す
一一、一九	南京城外東北八將地帯下痢に遷着蒙兵所開設 南京に於て野戦病院を接收せしむに何人蒙兵以外のものを中國側に引渡しを

年月日	概
昭二〇、三三二	すます
三、一、一七	下朝速着養護所を撤収せしめる
	収養速着を凡之南京才百七二兵站救護及才百六十一師団才一野戦病院に戦送し病院を閉鎖す
二、一一二	内地帰還のため南京出發
二、一四	上海着
三、一	師隊長高橋少佐以下衛生部員三十二名
	上海才一五七兵站病院へ戦送す
三、一九	上海港出帆
三、二二	博習港上陸
三、二三	銀貨式挙行
	除隊
	白集解除（除残務整理着）

(476)

2465

才百六十一師團騎馬廠略正

陸軍少将 大尉

佐々木賢一

年月日		明治三十一年六月 一、一〇				
種		編成地 善通寺騎兵才五十五連隊補充隊 發建部隊騎馬廠編成下令 編成尾結 編成時の人員				
兵	下士官	准尉	將校	階級別	人員	
				内	人員	
一〇六	一六	一	八	補	一三一	
内務工務兵 一七名		將校は全員歐辰部將校とす		考		
兵科下士官六名、歐辰部下士官八名、任注部及至理部下士官各一名						

(477)

2466

年月日	概略
昭三〇二一〇	登徒團隊騎馬隊として普通寺附近騎兵才五十五里隊補充隊に於て編成此後
一、一九	中支派遣のため普通寺出発
一、三一	上海到着
	旅順準備從事
三、一〇	嶺江混成才六十二旅団騎馬隊に編成改正
三、二九	北洋州線突站騎馬隊として上海出発
三、二五	徐州に到着
	同地に於て本隊を徐州に
四、三〇	支隊を騎馬隊に改置し兵站業務に從事
五、二九	才百六十一師団騎馬隊に編成改正を命ぜられ
五、三一	徐州出発
六、一八	上海到着
	浦東地区に移駐
	同地に於て師団騎馬隊として之の任務に從事中
八、一七	部隊は瀋州に移駐を命ぜられ
八、一八	上海出発
	南京に到着

(478)

2467

昭三、三、二六	昭三、九、二一
才六十一師団看護隊長 陸軍少佐大尉 梅々木賢一	南隊出港 卷北門兼中營に入る 内地精選のため卷北門出港 上海到着 上海出港 鹿尾島に上陸 旧練庁跡広場に於て部隊を解散す 部隊解散時に於ける兵力内訳 戦病死者 一名 生死不明者 三名 入港者 二名 裏地召集解除者 七名 戦死者 一名 精選人員 一名 計 一三七名

(477)

2468

少百六十一師團防戍給水師部隊略正

陸軍軍医少佐 村田 武雄

年月日	概	要
昭和二〇、一、六	陸軍機務少十三号に授けられ板橋成福師團防戍給水師編成下令	
一、九	香川縣善通寺町番里兵少五十五連隊補充隊に於て	
一、一〇	登建師團防戍給水師編成	
一、一〇	板橋成福	
一、二〇	善通寺出発	
一、二三	博多港出帆	
一、二五	同日釜山上陸	
一、二七	聯通國境迄東進	
一、二七	浙文國境山海崗通過	
一、三一	上海着	
同日	同日より同地駐屯	
二、一	軍令陸甲少十八号により	
同日	独立混成少六十二旅團防戍給水師編成下令	



昭三〇、三、一〇	編成完結
三、一二	同日十三軍旅命甲才七百八号に拠り才六一師団に配属 十三軍旅命丙才九百八十号に拠り才六十一師団の配属を解かれ
三、二七	主力を独立混成才九十旅団三部を北津浦及南津浦各兵站地区司令部に配属 南北津浦兵站地区司令部配属一部上海出発
三、二九	徐州蚌埠着
四、一七	部隊主力上海出発
四、一八	江都景揚州着
四、一九	一部茨城県 同地駐屯
四、一二	軍令陸甲才六十五号に拠り 才百六十一師団防疫給水師編正改正並に 独立混成才六十二師団防疫給水師復員下令 編成並に復員完結
四、三〇	十三軍旅命甲才八百一号に拠り 独立混成才九十旅団及南北津浦兵站地区司令部配属を解かれ
五、一三	原所着に復帰
五、二七	北津浦兵站地区配属一部帰京を

年月日	概
四二〇、五二八	南津浦兵站地区配属 一部時車を夫々出発
五、三〇	上海着
五、二九	部隊主力江都景陽川に集結出発
六、二	上海着
六、七	一節を同文書院大学附近に 主力を浦東に移動
	同地駐屯
八、一七	移駐のため上海出発
八、一四	停戦詔書発布
八、一八	南京着
	河地駐屯
九、二	同日軍令陸甲才百十六号に拠り復員下令 停戦決定精給
二二、二、一四	内地帰還のため
二、一五	南京出発 上海着

収  
中  
支  
二

(482)

2471

	昭三、三、三 三、七 三、八
	田部駐屯 上海出帆 博多港上陸 部隊復員式終了 同日才存六十一師田部復員給水部隊 部隊長 陸軍軍医少佐 村田武雄 部隊人員 二二九名

(483)

2472

獨立混成隊第九十旅団司令部附正

陸軍少將 山本源右衛門

年月日	概	要
昭、九、三、三、八	卒才二十二号勲賞才一号に授り	
三、一七	才四野戦補充隊編成下令 静岡に於て編成完結 隊長 陸軍少將 山本源右衛門 副官 陸軍中尉 鈴木 茂	
三、二一	門司港出發	
三、二四	青島港上陸	
三、二四	支那派遣軍總司令官の部下に入る	
三、二八	軍精改変に授り才十一野戦補充隊の仮編成四ヶ大隊配属せらる	
三、三九	江蘇省鎮江着	
四、一五	軍精改変に授る仮編成完結	
四、二二	江蘇省江都県揚州着	
六、二五	才十一野戦補充隊配属四ヶ大隊を当該に配属せしめる	

昭二九、七九  
至七、二〇

昭二〇、一三一

二、二〇

二、二五

如平原管領周田討伐に參加

本部江蘇省泰原に移駐

軍令陸甲才十八号に拠り才田野戰補允陸復員

同日

獨立混成才九十旅団編成下令

江蘇省泰原に於て編成完結

旅団長 陸軍少將 山本源右衛門

参謀 欠員

副官 陸軍少佐 西垣宗太郎

副官 陸軍少尉 水村源之助

獨立歩兵才六百二十六大隊長

陸軍大尉 岩崎 孝

獨立歩兵才六百二十七大隊長

陸軍少佐 原田 達

獨立歩兵才六百二十八大隊長

陸軍中佐 古面秀次

(485)

2474

年月日	概	送
九、七	<p>独立歩兵才六百二十九大隊長            独立歩兵才六百三十大隊長            独立混成才九十旅團砲兵隊長            独立混成才九十旅團工兵隊長            独立混成才九十旅團通信隊長            独立歩兵才六旅團            独立歩兵才二一一大隊及            独立混成才九十旅團            独立歩兵才六三四大隊            を旅團に配属せしめらる            参謀 陸軍中佐 首根崎勝人            着任</p>	<p>陸軍大尉 丸井芳秋            陸軍大尉 長谷川軍平            陸軍少佐 土肥正樹            陸軍少佐 山本哲也            陸軍少佐 渡辺吉也</p>
八、二五	<p>軍令陸甲才一一六号に拠り覆員下令            独立歩兵才六二七大隊及独立歩兵才二一一大隊を以て            格東支隊を編成</p>	
八、二五	<p>才十三軍の直轄に入れしめる</p>	

中  
文  
二

(486)

2475

昭三〇、三、五

三、二、一四

一、一五

二、七

二、一六

二、一八

七、五

七、一三

蘇北新軍總反攻軍滅のため揚州泰興口岸鎮附近に作戦す

試被解除並軍出接収

上海集結

敵団全部上海地区に集中復甯準備待命す

啓東支隊へ独立歩兵中隊二大隊を除くを敵団に復甯せしめる

上海港出港

滬獨港上陸

(437)

2476

独立混成隊九十旅団略正

陸軍少尉 小柳 盾之

年月日	概要
昭二〇、二二〇	<p>軍令陸甲才十八号に依り才四野戦補汎隊梗竊 同日 独立混成隊九十旅団編成定結 修徒梗竊のため敵匪墮下談当着</p>
二、二二二	<p>新枝 八名 下士官 五名 兵 二二名 計 三五名</p>
二、二二七	<p>に復員内報下令さる 上海市政府到着</p>
二、二二七	<p>才十三軍司令部修徒隊 本多中尉の指揮下に入る 輸送指揮東少佐の指揮下に入り 才三十二番州丸に乘船</p>



昭三、三、二八

三、四

上海出帆

博多港到着

板貝式奉行

同日板貝を完了

設立混成歩九十旅団警備隊

陸軍少尉 小柳信之

内地帰還時主力を分離し板貝した一部部隊の略正は殆ど

(489)

2478

独立混成隊九十旅団司令部先発部隊

陸軍大尉 芦沢喜美

年月日	概	要
昭二〇、三、二五	独立混成隊九十旅団司令部編成完了	
二一、一、一	江蘇省江甯縣揚州出發	
一、一、二	泰山嶺口岸到着	
自 一、一、二	口岸嶺、泰山附近の警備	
至 二、一、一	内地掃蕩のため口岸嶺出發	
三、二、二	柴船命令を受け	
三、二、二	中国日修監理処才七号兵站集中營を司令部主力と分離 三百四十六名検査並に内地掃蕩のため出發	
三、二、四	輸送指揮官 陸軍大尉 芦沢喜美	
三、二、六	輸送副官 陸軍中尉 服部栄一 上海飯田棧橋より全員海防艦団後に乗船一三〇〇出發 近世海上陸へ（〇九三〇）	

三、二六

日針尾海兵衛に到着  
泊  
復員式実施

(491)

2480

外ノ中支ニ

独立歩兵才六二六大隊略歴

年月日	概	要
昭、九、三、二八 一、三、一七	才二十号才一号勅員下令 歩兵才百三十六連隊に於て才四野戦補充隊才一大隊として編成定結 大隊長 陸軍大尉 西垣宗太郎 副官 陸軍中尉 鈴木 武夫	
一九、三、一五 一、三、三二	收阜出発 門司港出発 青島港上陸	
四、一	江蘇省高郵県高郵着 同地附近の警備	
自 六、二 至 七、七	東成師団大隊を編成三湘桂作戦（衢州作戦）に参加す	
自 七、九	如集県直鎮固辺の討伐（兵用討伐）に参加す	
自 七、一三 至 三、二五	淮河啓開作戦（山河啓開作戦）に参加す	
自 一、三〇 至 三、二五	軍令陸甲才十八号に依り才四野戦補充隊才一大隊復員下令	

(423)

2481

年月日	概	要
昭三、三、二五	独立歩兵才六二六大隊とし之齎成下令	
三、二五	高野に於て齎成先遣	
	大隊長 陸軍大尉	岩崎
	副官 中尉	杉江
	才一中隊長 中尉	栗田
	才二中隊長 中尉	平松
	才三中隊長 中尉	篠田
	才四中隊長 中尉	有我
	狭野統中隊長 同	若松
	歩又砲中隊長 同	古田
	通信隊長 同	浪上
	淮河啓開作戦(高野研面側地及び討伐)に参加す	忠一
	匪軍の高野攻襲に際し自衛の備之と交戦す	
	軍令陸甲才一六号に依り内地帰還の爲高野出発	
	上海集結	

内ノ中文マ

(492)

2482

<p>六三 六二 六二</p>	<p>大隊長 陸澤少佐 上海港出帆 博多港上陸 復讐完結</p>	<p>死亡 八五 生死不明 一七 入院 六九</p>
-------------------------	--	------------------------------------

(425)

2483

独立歩兵第六百二十六大隊才三一中略歴

陸軍中尉 杉原尚夫

年月日	概
昭二九、三、七	才四野戦補充隊才一大隊才三中ノ隊編成を完結す
	部隊編成完員 二四一、中隊長一、持校七、下士官二六 兵科兵ニ二三、衛生兵四一あり
	行動の概要
	中支派遣の爲
三、二七	政草出発
三、三	内司出帆
三、三	青島港上陸
三、九	江蘇省鎮江着
四、六	江蘇省高郵県郵到着
	同日より同地附近の警備
二、三、三〇	才四野戦補充隊復員
	同日独立歩兵第六百二十六大隊才三中隊長要員に充当
三、五	独立歩兵第六百二十六大隊才三中隊編成完結
	同日より引続き高郵附近の警備

(496)

2484

中文

年月日	概	要
昭和三十八年三月三十一日	旅団直轄部隊として同省柔県及善徳鎮附近の警備	
昭和三十八年三月三十一日	即伯鎮附近の警備中	
昭和三十八年三月三十一日	新四軍の攻撃を受け交戦	
昭和三十八年三月三十一日	揚州到着	
昭和三十八年三月三十一日	揚州出発	
昭和三十八年三月三十一日	江蘇省口岸鎮に到着	
昭和三十八年三月三十一日	同地附近の警備	
昭和三十八年三月三十一日	口岸鎮出発	
昭和三十八年三月三十一日	上海集結、吳淞東中營（吳淞才三兵舎）に入る	
昭和三十八年三月三十一日	内地帰還の舟二一却	
昭和三十八年三月三十一日	上海出帆	
昭和三十八年三月三十一日	鹿児島上陸	
昭和三十八年三月三十一日	同日召集を解除（除隊）す	

(497)

2485



1  
之  
中  
夫  
之

才

才

平 月 日	
概	兵力 除隊召集解除者 一〇九名 残務整理者 陸軍中尉 武藤五郎
要	

(498)

2486

独立歩兵中隊六二七大隊

年月日

概

要

昭、一、二、三、六

三七

三、一八

三、三二

三、三二

四、一〇

有、一、四、一〇

至、二、二、二四

幸才ニロ号勤員才一号に依リ才四野戦補充隊歩兵才ニ大隊編成下令せらる  
同日野戦歩兵才百十八連隊に於て編成に着手す

編成完結す

編成整備別編才一〇如し(別所略)

支那派遣の野戦隊を出発す

可成る出帆す

青島港に上陸す

中支江蘇省宿遷縣城に到着す

同日より城址地区の警備を担任す

本作戦に於ける死傷(戦死、戦傷死、戦病)者数左の如し

死	戦傷	戦病	区別
四	一	三	将校
三	九	三二	下士官
五	五	一〇八	兵

自五月二十日 向本隊一部(才七中隊)  
至七月三十一日 向本隊主力(才七中隊)  
MG一小隊(中隊主力) 榴弾作戦に参加  
本作戦に於ける戦死者 兵四名

戦傷者 下士官 一名  
兵 八名

2487

年月日	概要
昭三、三、二五	昭和ニシテ平軍令陸甲才一八号に依リ才四野野補充隊歩兵才二大隊復員
三、二五	独立混成才九〇旅団独立歩兵才六二七大隊滿以下令セラル
三、二五	江蘇省嶺域に於テ編成を完結ス
三、二五	同日單隊区分に依リ才五中隊を編成し引續き前任務を履行ス
三、二五	編成裝備別紙才ニの如し(別附略)
三、二六	大隊一初(才一、二、五中隊、M、一小隊、P、一小隊)を独立歩兵才六二八大隊長の指揮下に入札嶺域に待置し主力を以テ江蘇省南通に移駐の爲出発ス
三、二三	江蘇省南通に到着し、同日より光号作戦準備の爲南通地区陣地構築並に醫備を
三、二三	前任部隊たる独立歩兵才一ニ八大隊より継承ス
三、二五	独立歩兵才一ニ八大隊より 将校以下 二七九名
三、二五	独立歩兵才一ニ七大隊より 将校以下 三〇四名
三、二五	独立歩兵 一三〇大隊より 将校以下 一四九名
三、二五	歩兵才十一連隊補充隊より 将校以下 九五名
三、二五	歩兵才三十四連隊補充隊より 九二名
三、二五	歩兵才七十八連隊補充隊より 一三三名
三、二五	歩兵才六十八連隊補充隊より 三三名
計	九三三名

(500)

石兵員を定員外として大隊に転属せらば軍隊区分に依り才六、七中隊を編成  
 すると共に各中隊に編入、作兼並に警備力を強化す  
 才六七中隊の兵力左の如し

八五

才六中隊 長中尉 加 藤 一 以下 一五四名  
 才七中隊 長中尉 伊 藤 英雄 以下 一五名

大命を拜し積極的戦闘行動を停止す  
 大隊編成以來現在迄に於ける死傷戦傷戦病者数左の如し

区	分	將	校	下士	自	兵
死	致	/		一		二二
戦	傷		三		三	一一
戦	病		五		二一	九七

九三

隨後陣地構築を停止し警備任務を依然執行せり  
 旅正歩兵才六二八大隊に配属増城に封置せし部隊の一部  
 河野大尉以下南進に到着し原所屬に復帰せり

二一、一五

大隊は遂次兵力を解通河田に集結す  
 中国軍才七十一軍に依り南進に悉く武装を解除せらる  
 爾後南進中隊に東中中隊側管理せらる

昭和二十年

年月日		概	要																								
昭二〇	六九	上海集中の熱南運出先																									
三〇		上海船場到着同日中心区集中船に収容せらる																									
三二		上海出帆																									
三六		博多港上陸																									
		復員式後却隊を解散し復員を完結せり																									
		昭和二十年八月十五日より復員完結迄の死没、戦病者の数左の如し																									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>戦病</th> <th>死没</th> <th>区分</th> <th>将校</th> <th>下士官</th> <th>兵</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>一</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>五</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>三一</td> <td>一一</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	戦病	死没	区分	将校	下士官	兵		一					五						三一	一一					
戦病	死没	区分	将校	下士官	兵																						
	一																										
五																											
三一	一一																										

(502)

2490

独立歩兵才六二八大隊

年月日

概

要

昭一九二二

才ニハ号動員才一才に依リ才四野戦補充隊才三大隊編成下令

三二七

静岡に於て編成光緒

(一) 編成の概要

本 部 一

歩兵中隊 四

機関銃中隊 一

歩兵砲中隊 一

持校五七名 准士官 一六四名  
下士官

共一三三三名衛生兵 二四名

計 一四五八名

(二) 持校職員表 附表才一の如し

三三

門司港出帆

三二

青島港上陸

三一九

江蘇省鎮江着

同日同港出発翌日30系乗口半鎮上陸

爾後逐次分進才大師団(南師隊)より栗臼果如果地区の警備を継承するに  
毛地左の如し

(523)

2491

年月日	概
昭和 三、三、 二五	<p> <b>概</b>            栃茶嶺 歩一中基幹（内一小豊利嶺）            黄橋嶺 歩一中            大中集 歩一中基幹（内一小劉莊）            東台 主力（内一小時堰嶺）            内一ヶ月にして、栃茶嶺、黄橋嶺の警備を才四大隊に申し送り才三大隊より            塩城泉麗王廟の警備を継承す            軍令陸甲才一八号に依り才四野戦補充隊は復員し独立親成才九十旅団愷立歩兵            才六二八大隊編成下令            編成先詰前任務履行            二五            編成の概要            本即 一（但し将来改編を豫想し集材一ヶ中隊を才五ヶ中隊長）            歩兵中隊 四            機銃中隊 一            歩兵砲中隊 一            通信隊 一            編成時の現在人員 将校四六名 准士官 一六五名            兵一〇七五名 衛生兵 二一名            計 一三〇九名         </p>

(526)

2492

昭二七、三三	(三) 持校職員表略す 被歩六二七大隊の歩二中隊肉銃歩兵砲各半部を壓腐せられ塩阜地区の警備を同大隊より継承す其駐屯地左の如し 陳永洋鎮 歩千基幹(内一小合同鎮) 塩 城 主力
八二五	軍令陸甲オ一六号に依り復員下令 塩阜地区の被歩六二七大隊の隊員部隊を原所屬に復帰し同地区の警備を敷す
八二五	歩二中を秦県に先遣一時兵田の直轄ならしむ
八二九	東白警備を撤し秦県に移駐同日より同地附近に警備す
三二、一、一六	秦県に在る軍備品其他中國軍に接収、同夜口岸鎮に兵力集結、被武装解除再後同地に待機
三二二	口岸鎮出発(但し大隊半部は二回に亘り上海に先行しあり)
三二〇	上海上陸集中營生活
三二八	上海出帆
三三三	佐世保上陸復員式後召集解除但し学徒十一名は、三々博多上陸召集解除
	卸隊長書記一殘務整理のため二日市町に残留す
	(一) 當時の人員内訳左の如し

(525)



年月日	概 要
昭二、三、三	<p>① 内地召集解除持校二五、准士官二、下士官二〇一          兵九二六、軍属一、計一一七五名</p> <p>② 現地召集解除 将校四、兵八、計一二</p> <p>③ 入院患者 三〇四</p> <p>④ 死致者 五六</p> <p>⑤ 生死不明 一</p> <p>(一) 渡又以降警備地内主要作戦及兵力之派遣せる主なる地区外作戦略す</p> <p>(二) 卸隊編成表及主要裝備附表略す</p>

(506)

2494

独立歩兵才六百二十九大隊略歴

陸軍大尉 丸井芳秋

年月日	概略
昭一九三、五	<p>滿州國奉天省蘇家屯に於て在滿各部隊より轉属せる下士官、兵を基幹とし一部内地より渡滿せる志召將校下士官を以て才十一野戦補充隊才四大隊の仮編成完結</p>
四、一五	<p>中華民国江蘇省鎮江に於て才十野戦補充隊才四大隊の編成完結同日附を以て才四野戦補充隊に營加配属を命ぜられ同隊長附の指揮下に入らしめらる</p>
六、二五	<p>編成改正令せられ才十一野戦補充隊の隷下を脱し才四野戦補充隊長の隷下に入らしめられ才四野戦補充隊才四大隊と呼称せらる</p>
二〇、二、二〇	<p>軍令陸甲才十八号に依り才四野戦補充隊は江蘇省如皋に於て渡滿を命ぜられ同日独立歩兵才六百二十九大隊要員に充用 独立歩兵才六百二十九大隊編成完結 編成左記の如し</p>

(507)

2495

年月日	概	要
昭一九三、一九	大隊長 陸軍大尉	丸井芳秋
三、三	剛 官 同 少尉	真木勲
三、五	才中隊長 同 中尉	高谷信一
	〃 〃 同	孫田博
	〃 三 〃 同	吉見繁二
	〃 四 〃 同	青山登
	機銃中隊長 同	佐藤嵩
	少突砲中隊長 陸軍中尉	吉川正三
	通信隊長 同	杉田巖
	尚右の外軍隊に依る	
	才五中隊長 陸軍中尉	天野芳郎
中支派遣のため荷州国奉天省蘇家屯出發		
濟文國境山海關通過		
江蘇省鎮江到着		
同地附近の警備に従事		

小々々々々

(508)

2496

夏の日

四二〇

移駐のため鎮江出發

二五

江蘇省如皋到着

同地区の警備を担任す。向兵力を定数に如く配置す

左記

如皋 本部 才四、五中队 歩兵砲通信中队

海安鎮 才一中隊

拼茶鎮 才二中隊

豐利鎮 才三中隊

其後警備地区及兵等に依り王家沢、磨頭鎮、右莊鎮附近の警備を併せ担任せしむ。概ね終戦時に到る迄引籠り右地区の警備に従事す

六三

拼茶鎮西南方十二村水港渡に於て拼茶鎮警備たる才二中隊は主力は敵新四軍と遭遇戦を展開し、勇戦奮闘に大なる損害を与えたるも五口モ亦加藤中隊長以下

兎名の戦死者、龜山准尉以下三十九名の生死不明者をだし

九二二

大隊は如皋附近に集結後揚州に向ひ前進

一七

江蘇省揚州に到着、同地附近の警備

二九

大隊は揚州出發

三〇

江蘇省泰興口岸鎮着同日より泰興口岸鎮附近の警備

二一、二六

内地帰還の時口岸鎮出發

(509)

2497

年月日	概要	要																																																								
昭二、一、一七	上海到着乗船待機	上海到着乗船待機 大隊長以下一、二五名 佐世保に上陸 復員式終了																																																								
昭二、一、二四	大隊長以下一、二五名																																																									
昭二、一、二六	佐世保に上陸																																																									
昭二、一、三二	復員式終了																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>階級</th> <th>内地帰還者</th> <th>現地除隊者</th> <th>入院</th> <th>生死不明</th> <th>逃亡</th> <th>死</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>将校</td> <td>三二</td> <td>二</td> <td>五</td> <td></td> <td></td> <td>三</td> <td>四二</td> </tr> <tr> <td>准士官</td> <td>三</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>五</td> </tr> <tr> <td>下士官</td> <td>二〇八</td> <td>一</td> <td>二</td> <td>一</td> <td></td> <td>二</td> <td>二三二</td> </tr> <tr> <td>兵</td> <td>九六九</td> <td>二四</td> <td>七四</td> <td>三二六</td> <td>四</td> <td>七三</td> <td>一、一八〇</td> </tr> <tr> <td>軍属</td> <td>三</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>三</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>一、三二五</td> <td>二七</td> <td>八一</td> <td>二一七</td> <td>四</td> <td>九八</td> <td>一、四六二</td> </tr> </tbody> </table>	階級	内地帰還者	現地除隊者	入院	生死不明	逃亡	死	計	将校	三二	二	五			三	四二	准士官	三						五	下士官	二〇八	一	二	一		二	二三二	兵	九六九	二四	七四	三二六	四	七三	一、一八〇	軍属	三						三	計	一、三二五	二七	八一	二一七	四	九八	一、四六二	
階級	内地帰還者	現地除隊者	入院	生死不明	逃亡	死	計																																																			
将校	三二	二	五			三	四二																																																			
准士官	三						五																																																			
下士官	二〇八	一	二	一		二	二三二																																																			
兵	九六九	二四	七四	三二六	四	七三	一、一八〇																																																			
軍属	三						三																																																			
計	一、三二五	二七	八一	二一七	四	九八	一、四六二																																																			

備考

一、残務整理者三名は内地帰還者の中に含まれり

二、生死不明は昭一九、六、二二、水港に於て、三九名なるも、龜山准尉戦死確認、上等兵小倉義衛、昭和二〇、一、二二、帰投に付三七名となれり。

独立歩兵才六百三十 大隊

陸軍大尉 長 川 軍 平

年月日	要
元三五	視
	<p>滿洲國奉天省平頂堡に於て在滿各部隊より取属せる下士官兵を基幹とし一都内地より渡海せる旅臣將校下士官を以て才十一野戦補充隊才九大隊の仮編隊光緒</p>
三、元	<p>中支派遣の森平廣壁出發</p>
二〇	<p>滿支回遼山海關通過</p>
二五	<p>中華民国江蘇省鎮江到着</p>
四一五	<p>鎮江に於て才十一野戦補充隊才七大隊の編成完結 同日附を以て才四野戦補充隊に増加配属を命せられ同隊長の指揮下に入らしめらる</p>
	<p>編成左記の如し</p>
	<p>左記</p>
	<p>大隊長 陸軍大尉 長川 軍平 副官 陸軍大尉 杉浦 武雄 才一中隊長 陸軍中尉 藤井 好雄</p>

年月日	概	要
一、二、三		本戦終了口岸鎮に集結
二、九		大隊の主力は茶縣附近の作戦参加の爲口岸鎮出發
六、三		大隊は口岸鎮附近に集結同地附近の警備に任す
三、三		大隊の主力は茶縣附近の作戦参加の爲口岸鎮出發
三、五		獨立歩隊第六百三〇大隊編成完結
三、三〇		同日獨立歩隊第六百三十大隊要員に充用
六、三		編成改正令せられ第十一野戦補充隊長の兼下を脱し 第十四野戦補充隊長の兼下に入らしめられ第十四野戦補充連隊が七大隊と呼称す 軍令陸甲が一八号に依り第十四野戦補充隊長の復歸を命ぜられ
四、二〇		江蘇省茶縣到着 同地区の警備を担任す
三		移駐の爲出發
		通信中隊長 同 山越 彦平
		歩兵連中隊長 同 鈴木 清三郎
		歩五中隊長 同 後藤 照休
		歩四中隊長 同 寺井 昶
		歩三中隊長 同 川口 享治
		歩二中隊長 同 鈴木 庫

(572)

2500

三、三、二	内地野蠻の海大隊の全部は口岸鎮出港
三、一〇	吳淞上陸吳淞ヲ三集中營に在りて乘船待機
三、三〇	上海飯田橋より乘船吳淞沖一泊
三、三八	上海出帆八時二十分
三、三三	三月三日在野原上陸
	召集解散
	部隊兵力
	總員 一三三二名
	隊隊召集解散
	内地 一一五二名
	現地 一六名
	入院 六〇名 (但軍曹高橋崇治上海一九二兵站病院入 院中二月二十一日死亡別紙参照)
	本土矢席 一五名
	生死不明 八名
	死没者 六九名

(513)

2501



独立混成才九十旅司令部兵隊 野屋

陸軍大尉 石原修二

年月日	概要
三、三三	<p>編成裝備の概要                      編成 本部附科校以下所要の下士官並に輜重兵は十一名を附す                      技術部、経理部、軍医部、獣医部の科校下士官兵を有す</p> <p>第一中隊 中隊長 陸軍中尉 江利山 武 一 (野砲)                      第二中隊 中隊長 陸軍大尉 花井 辰 治 (山砲)                      第三中隊 中隊長 陸軍大尉 溝口 正 二 (野砲)</p> <p>兵隊 十連榴弾砲一 野砲二 九四式山砲一 八二口径重砲十八                      十連臼砲二 を裝備す</p> <p>馬匹 二百二十三匹 内大陸馬 五六頭</p> <p>編成表別表の通り</p> <p>編成完結</p> <p>編成後の行動の概要</p>
三、三二	<p>名古屋に於て才四野戦補充隊を編成し同年                      鎮江着(江蘇省)</p>

中支二

(576)

2502

五、二	<p>江蘇省揚州着</p> <p>同地附近の整備に任じたるものあり</p> <p>司令陸甲ヲ十八号に依リカ回轉戦術充隊を基幹として</p> <p>独立混成ヲ九十旅団砲兵隊を編成す</p> <p>爾後同地附近の整備</p>
三、五、五	<p>光号旅戦準備のためオ一中隊を江蘇省如皋に</p> <p>第三中隊を江蘇省南通に推進せしめ本部及オ二中隊は揚州に位置す</p> <p>茅山附近の討伐及疎濶鎮附近の討伐のため渡辺少尉の指揮する但書一ヶハ隊</p> <p>を岩崎集或大隊に配属す</p>
至 毎 六、二 五、三	<p>光号旅戦準備のため主力の江蘇省姜堰鎮に前進を命ぜられ</p>
三、八、三	<p>揚州出港兼港に到る</p>
六、九	<p>揚州集結を命ぜられ兼限出港</p>
九、一〇	<p>揚州に到着</p>
三、一、一	<p>揚州引揚を命ぜられ舟艇により同地出港</p>
三、一、三	<p>江蘇省泰興貝口岸鎮附近の整備</p>
三、一、五	

(5-5)

年月日	概略
一、二七	上海吳淞才三吳兵に於て帰還待機
二、二五	上海港乗船
三、一	同日出帆 博多港上陸 同日部隊解散
三、一	突刀
三、一	ノ編成当時 在籍人員 七百三十九名 入院院患者百二十一名 於ける人員(参考)
三、一	将校 三一
三、一	下士官 一〇八
三、一	兵 五九一
三、一	針 七三〇
三、一	頭 屬 三
三、一	事故者(入院等) 一〇名

(516)

2504

年月日	概	要
昭一九、八八 一〇、五	<p>復員完結に至るまでの異動数</p> <p>イ 死没者 一三〇名 (昭和一九年三月以降の分)</p> <p>ロ 生死不明者 九名 (中二次本土兵備要員)</p> <p>ハ 入院患者 一〇七名 (昭和二一、三、一現在)</p> <p>ニ 報属者 六三名</p> <p>ホ 現地除隊者 七四名</p> <p>ヘ 現地入隊者 八四名</p> <p>ト 転入者 三〇名 (軍属三名)</p> <p>チ 内地復員者 五七七名 (軍属を含む)</p> <p>特別事項</p> <p>編成前における部隊号</p> <p>團有部隊号 中四野補充隊砲兵隊</p> <p>通称号 登(猿)五七一八部隊</p> <p>中二十二師田山砲兵中五十二連隊補充要員到着</p> <p>(古年兵)一四〇名</p> <p>(初年兵) 四六名</p> <p>陸境二十二旅田砲兵隊要員(初年兵)一四八名 到着</p>	

(511)

2505

昭一六、一〇、三六

野砲兵中一。四連隊要員（初年兵）四八五名夫々教育隊を編成  
教育担任

終了後所屬部隊に返及せしむ

能員八七九名

(518)

2506

独立混成第九十旅団工兵隊員

昭十九 三一

三一七

第四野戦精鋭隊編成勅諭下令

編成宗巻

隊長 陸軍少佐 中澤 政次

副官 陸軍少尉 芥藤 隆次

中隊長 陸軍中尉 野島 太郎

編成定員 一七三名

三一九 中文派遣ノ為豊橋屯営出発

三二一 阿司港出帆

三二四 青島着

三二九 鎮江着

四二 江蘇省江都縣揚州着

四一四 中隊長野島太郎隊長代理として京漢作戦

(瀋水作戦)に参加の爲出発す

五一九 右作戦終了し揚州帰隊

五二七 湘桂(瀾州)作戦参加の爲野島中隊出発

五三〇 部隊は恭嶽移駐の爲揚州出発

六二 恭嶽に到着後同地附近の警備に従事す

七、七 野島中隊湘桂作戦を終了し帰隊す

十一 二 一三 一六	隊長中澤政次工兵第四十三聯隊を命ぜられ揚州出發（隊長欠員） 兵団築城隊設置せられ喜多中尉隊長となり 築城出發 如皋地区の築城作業に任ず 軍令陸軍第十八号に依り第四野戦補充隊復員 同日独立混成第九十旅団工兵隊編成完結
昭三〇 二、二〇	隊長 陸軍大尉 山本 哲也 副官 陸軍少尉 芥藤 陸次
第一中隊長 陸軍中尉 川喜多 將 第二中隊長 陸軍中尉 野 昌 太 郎	衛成定員 五八七名
四 五〇	爾後引続同地附近の警備に任ず 隊長 陸軍大尉 山本哲也 着任す
五一 一七	部隊主力（本部第一中隊）は如皋縣如皋に移駐同地附近の築城に従事す 第二中隊は如皋縣石莊鎮に移駐し同地附近の築城作業に従事す
八 二四	部隊は集結命令に基き如皋を出發
九 三	築城に到着
九 一〇	揚州に到着
一三 二八	第二中隊は築城縣口岸類に移駐の越揚州出發

(520)

年月日	概	要
昭二一、一	部隊の主力は口岸鎮移駐の急揚州出発	
一、二	口岸鎮着 爾後同地附近の警備に任ず	
一、六	部隊の一部は上海集結のため口岸鎮出発	
二、二	部隊の主力は上海集結の急口岸鎮出発	
二、八	上海到着と共に部隊集結完了	
三、三	隊長 山本哲也 補第十三軍司令部附	
三、一五	同日 補工兵隊長 陸軍大尉 野島太郎	
三、一五	隊長以下五三〇名「レバティ」に依り上海港出発	
三、一九	博多に上陸 同日復員式終了	

(520)

2509